

## 令和3年（2021年）職場における熱中症による

## 死傷災害(休業4日以上)の発生状況

＜神奈川労働局管内 令和4年4月8日時点暫定値＞

## 1 熱中症による死傷者数の推移

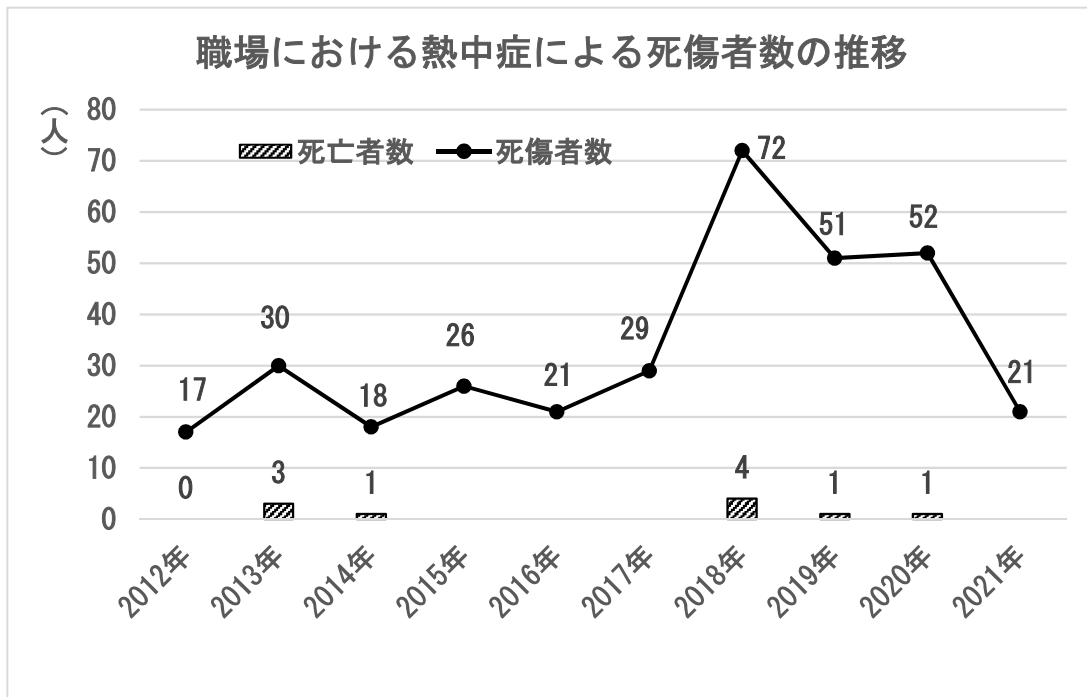
過去10年間の熱中症による死亡者及び休業4日以上の上業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）は、以下のとおりである。

令和3年（2021年）の死傷者数は21人と、前年に比べ大幅に減少した。また、死亡者数も2017年以來4年ぶりに0人であった。

職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
17 (0)	30 (3)	18 (1)	26 (0)	21 (0)	29 (0)	72 (4)	51 (1)	52 (1)	21 (0)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



## 2 業種別発生状況

過去5年間（2017～2021年）の業種別の熱中症の死傷者数をみると、建設業、製造業及び運送業で全体の5割近くを占めているものの、商業、警備業、清掃・と畜業及び接客娯楽業等でも数多く発生しており、幅広い業種で発生している。

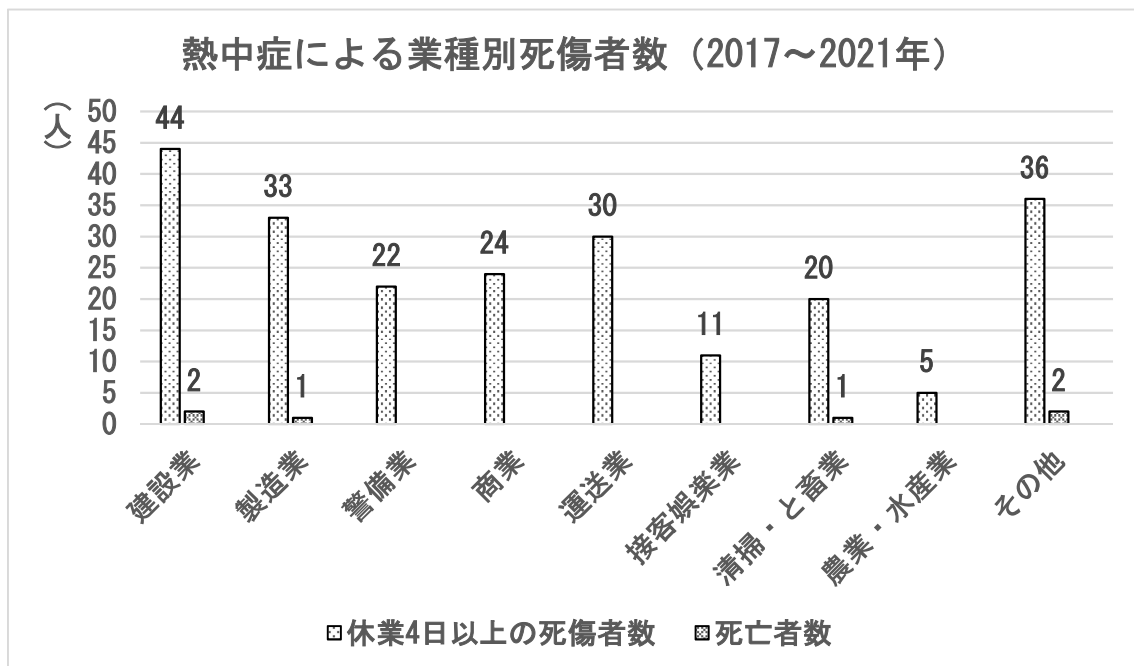
令和3年（2021年）は、製造業で5人、警備業で4人及び建設業、運送業で3

人等となっている。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（2017～2021年）（人）

	建設業	製造業	警備業	商業	運送業	接客 娯楽業	清掃・ と畜業	農業・ 水産業	その他	計
2017年	12 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	5 (0)	29 (0)
2018年	8 (1)	11 (1)	8 (0)	14 (0)	7 (0)	7 (0)	4 (0)	2 (0)	11 (2)	72 (4)
2019年	12 (1)	8 (0)	3 (0)	5 (0)	6 (0)	2 (0)	5 (0)	2 (0)	8 (0)	51 (1)
2020年	9 (0)	5 (0)	7 (0)	3 (0)	10 (0)	1 (0)	7 (1)	1 (0)	9 (0)	52 (1)
2021年	3 (0)	5 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	21 (0)
計	44 (2)	33 (1)	22 (0)	24 (0)	30 (0)	11 (0)	20 (1)	5 (0)	36 (2)	225 (6)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



### 3 月・時間帯別発生状況

#### (1) 月別発生状況

2017年以降の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体のほぼ半数が8月に発生し、これに7月発生分を合わせると全体の8割となる。また、死亡災害6件は7

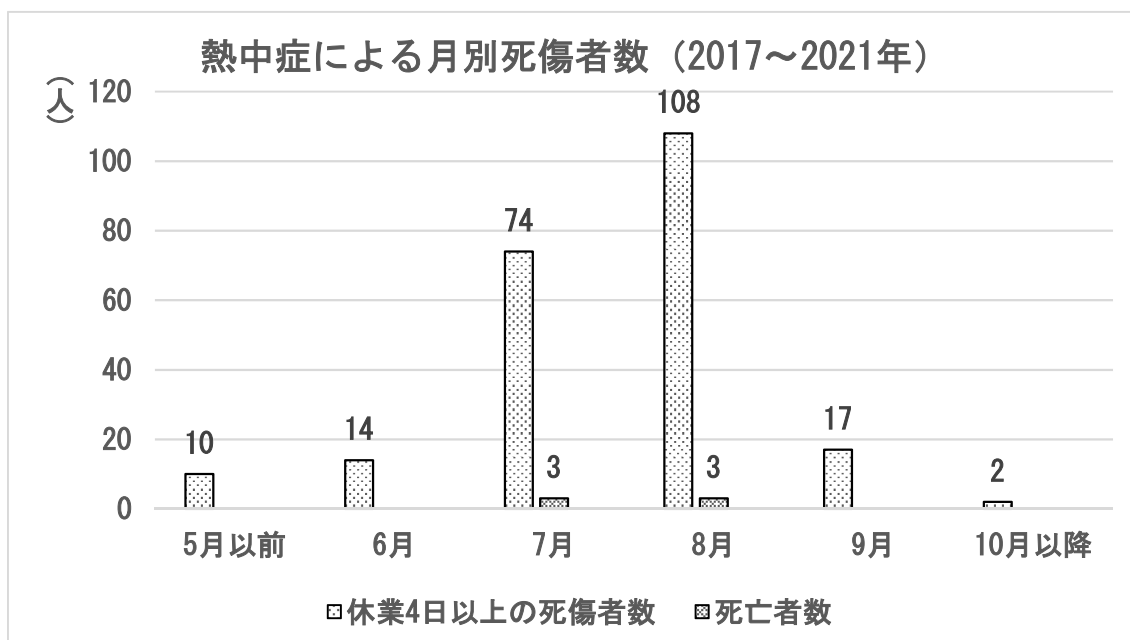
月と8月に集中している。

令和3年（2021年）は、死傷者数全体の9割が7月と8月に発生しており、例年以上にこの時期に集中している。発生日の最も早い災害は6月で、最も遅いものは9月であった。

熱中症による死傷者数の月別の状況（2017～2021年）（人）

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
2017年	3 (0)	1 (0)	11 (0)	14 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (0)
2018年	2 (0)	6 (0)	36 (3)	23 (1)	4 (0)	1 (0)	72 (4)
2019年	4 (0)	2 (0)	15 (0)	24 (1)	6 (0)	0 (0)	51 (1)
2020年	1 (0)	4 (0)	6 (0)	34 (1)	6 (0)	1 (0)	52 (1)
2021年	0 (0)	1 (0)	6 (0)	13 (0)	1 (0)	0 (0)	21 (0)
計	10 (0)	14 (0)	74 (3)	108 (3)	17 (0)	2 (0)	225 (6)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



(2) 時間帯別発生状況

2017年以降の時間帯別の死傷者数をみると、11時台、14時台で最も多く発生

しているが、日中だけではなく9時台以前及び18時台以降にも多数発生している。日中の現場作業終了後に会社事務所に戻ってから、または、帰宅してから体調が急変・悪化したというケースも散見される。

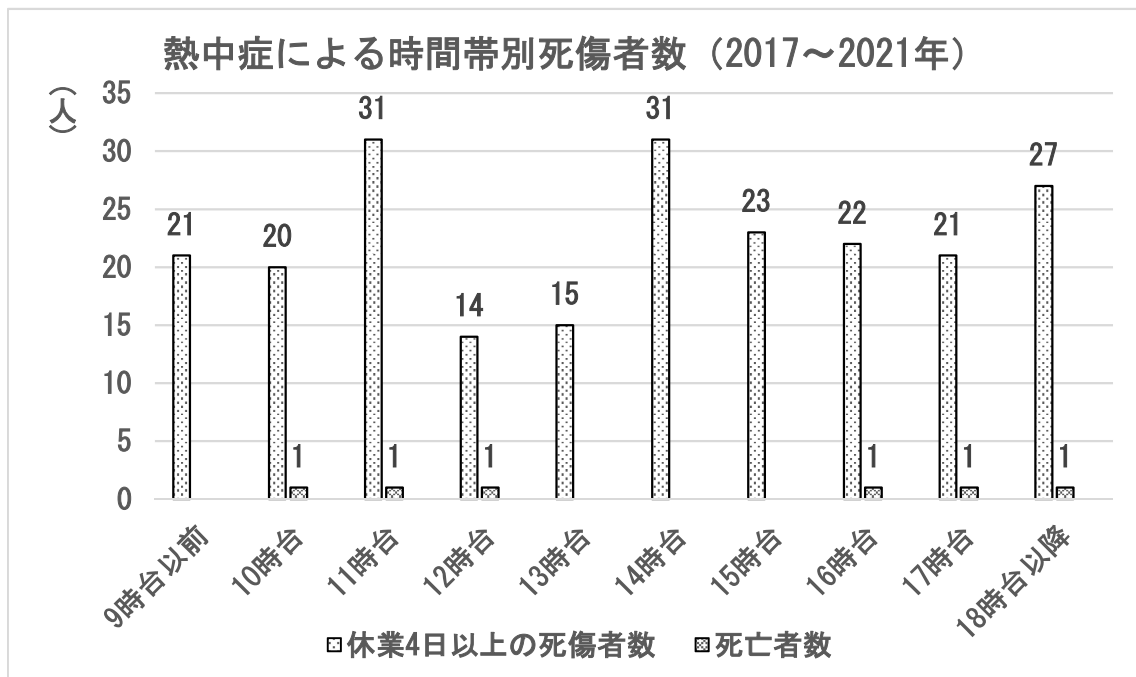
令和3年(2021年)は、14時台での発生がなかったほかは、10時以降押し並べて発生している。最も遅い発生時間は20時台であった。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況(2017~2021年)(人)

	9 以 時 前 台	10 時 台	11 時 台	12 時 台	13 時 台	14 時 台	15 時 台	16 時 台	17 時 台	18 以 時 降 台	計
2017年	2 (0)	3 (0)	6 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	5 (0)	29 (0)
2018年	7 (0)	8 (1)	7 (1)	7 (1)	6 (0)	8 (0)	6 (0)	10 (1)	5 (0)	8 (0)	72 (4)
2019年	9 (0)	3 (0)	8 (0)	0 (0)	4 (0)	13 (0)	4 (0)	3 (0)	5 (1)	2 (0)	51 (1)
2020年	3 (0)	3 (0)	7 (0)	3 (0)	3 (0)	7 (0)	7 (0)	5 (0)	5 (0)	9 (1)	52 (1)
2021年	0 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	21 (0)
計	21 (0)	20 (1)	31 (1)	14 (1)	15 (0)	31 (0)	23 (0)	22 (1)	21 (1)	27 (1)	225 (6)

※ 9時台以前は0時台~9時台、18時台以降は18時台~23時台を指す。

※ ( )内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



#### 4 令和3年（2021年）の熱中症による死傷災害の特徴

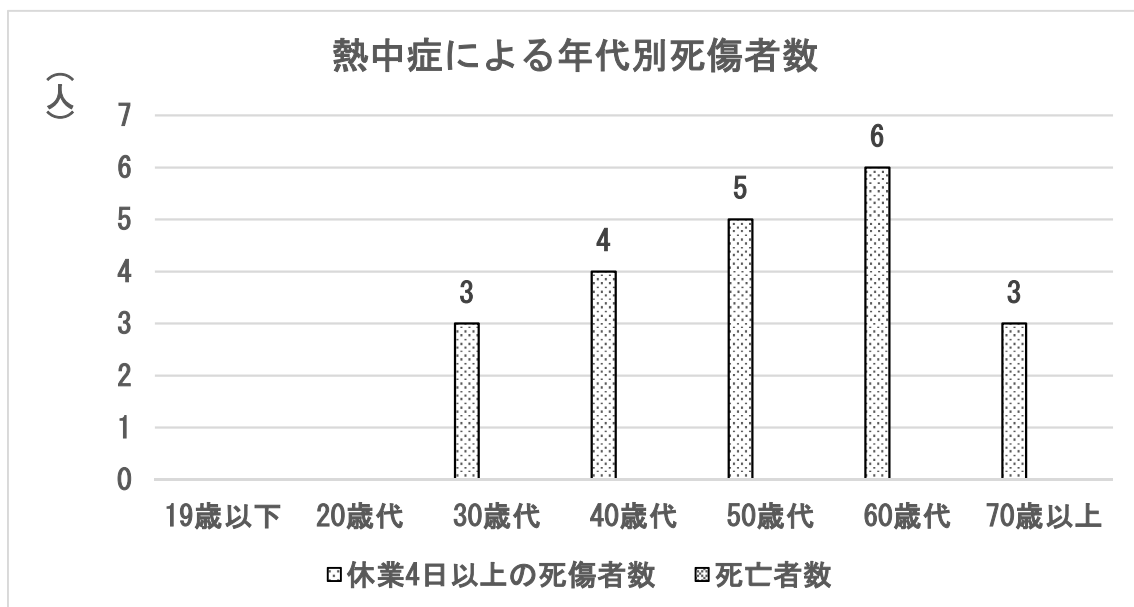
##### （1）年代別の発生状況

年代別の死傷者数をみると、60歳代が6人と最も多く、次いで50歳代が5人、40歳代が4人となっている。前年には9人の発生があった29歳以下での発生はなく、50歳以上の死傷者数が全体の2/3を占め、高齢者の発生がより顕著であった。

熱中症による死傷者数の年代別の状況（人）

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
死傷者数（人）	0	0	3	4	5	6	3	21(0)
割合（%）	0.0	0.0	14.3	19.0	23.8	28.6	14.3	100.0

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である



##### （2）屋内作業での発症

製造業、社会福祉施設での死傷災害をはじめ、全体のほぼ半数に当たる10件は屋内作業に従事していたと考えられる状況下で発生している。

こうした状況は、2021年に限ったことではなく、熱中症災害は、屋外作業だけが危険なわけではないことに留意が必要である。

屋内作業においては、炉や厨房等といった特別な熱源はないが、通風が不十分で高温多湿であると考えられる室内環境において多く発生している。

5 平成30年（2018年）以降の熱中症による死亡災害の概要

番号	発生年月 発生時刻	業種 事業場規模	起因物 事故の型	発生概要
1	平成30年 7月 16時頃	その他の事業 10名～29名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	草刈りの補助業務を行っていた被災者が熱中症を発症して倒れたもの。
2	平成30年 7月 12時頃	建築工事業 ～9名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	個人住宅の2階ベランダ改修工事のために防水工事を行っていた被災者が熱中症を発症して倒れたもの。
3	平成30年 7月 10時頃	化学工業 10名～29名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	金型作業室内で作業を行っていた被災者がトイレ内で倒れているのが発見されたもの。救急搬送されたものの、死亡が確認された。（熱中症）
4	平成30年 8月 11時頃	その他の事業 ～9名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	変電設備の点検作業に従事していた被災者が変電設備の前で意識を失って倒れているのが発見されたもの。（熱中症）
5	令和元年 8月 14時頃	土木工事業 100名～299名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	土地区画整理事業造成工事において、施工管理補助業務に従事していた派遣労働者が、帰宅で利用する最寄り駅構内で倒れているのを発見されたもの。当日は気温が30度を超過しており、高温環境下で測量及び巡視作業を行っていた。病院で熱中症の診断を受け、8日後に死亡したもの。
6	令和2年 8月 18時頃	清掃・と畜業 （産業廃棄物 処理業） 50名～99名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	夏休み明けの初日、焼却炉を稼働する準備作業において、高温環境下で、炉内の補修材をミキサーで練る作業をしていたところ、泡を吹いて心停止状態で倒れていたのを同僚に発見された。（熱中症）